

日本には、その季節を象徴するさまざまな風物詩があります。
人々の生活に密着した、緑のある風物詩に出かけてみませんか？

朝顔市



下町の夏の風物詩、朝顔市。中でも入谷の朝顔まつりは有名で全国に知られています。

朝顔が今のような鑑賞用として栽培されるようになったのは江戸時代に入ってからで、文化・文政期(1804～1830)の事です。下谷の植木職人たちが葉も花の形も変化に富んだ、いわゆる変化朝顔の栽培を始めたところ、評判となり一般庶民にまで広まっていきました。

豆知識

朝顔は薬だった？

朝顔は誰でも、一度は育てたことのある身近な植物ですが、日本古来の在来植物ではなく、奈良時代に遣唐使によって中国から渡来したと言われています。朝顔が観賞用として栽培されるようになったのは後のことで、もともとは牽牛子（けんごし）と言われる下剤で、その種を薬として用いていました。

ほおずき市



鮮やかな赤い実を着けるほおずきの鉢植えがいっぱい天井からつるされた店の前で、売り子たちの威勢のいい掛け声が響きます。朝顔市と並びほおずき市も下町の夏を代表する風物詩として欠かせません。

浅草の浅草寺で、四万六千日の縁日に開かれるほおずき市は全国から観光客が訪れ、たいへん賑わいます。

朝顔市とほおずき市は各地で催されています。下町情緒あふれる夏の風物詩にちょっと出かけてみませんか。

コラム

ほおずき遊び

四季にめぐまれている日本では、季節ごとにさまざまな草花を使った遊びが伝えられてきました。

ほおずきの丸い果実をやわらかくもみほぐして中身を取り出し、皮だけにして口に含んで鳴らす風船。

赤い袋の皮をむいて裏返しにして、実に顔を書けば「ほおずき人形」のできあがりです。同じように皮を裏返ししてお尻をひもで結んで、ひげ面を書けば「だるま」になります。